

FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！ 学生生活

Vol. 50

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、
文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

KAWAKAMI HARUKA



やりたいことができる大学生活

文学部人文社会科学科社会情報学専攻図書館情報学コース3年／都立調布北高等学校出身

川上 春香 かわかみ はるか

新型コロナウイルスの影響により、ほとんどのオンラインで始まった大学生活。

慣れない生活にあたふたしている間に大学1年生が終わり、大学2年生からは司書課程を履修して、図書館情報学について理解を深めました。図書館情報学コースの学生は、大学3年生になると図書館実習に行くことができます。以前から興味を持っていた私は、地元の公共図書館を実習先を選び、夏季休業中に計8日間の図書館実習に挑みました。今まで座学で学んできたことを生かした実践的な内容や、イベントへの参加などさまざまな業務を体験し、大変貴重な経験をさせていただきました。これまでの学修で得た知識を使って、利用者や図書館員の助けをすることができたのがとてもうれしく、大学で図書館学を専攻してきて良かったと思う日々でした。学修がしっかりと身につけていると感じ、実習に行く決断をして良かったと思います。実習のおかげで図書館情報学について今まで以上に興味を持つと同時に、以前より図書館を有効活用することができるよう

なっただと思います。

また、授業以外にもいろいろなことに挑戦したいと思い、スチューデント・ライブラリアン（以下、SL）に応募しました。SLとは、中央大学文学部の高大連携企画の一つ。大学生と高校生が協力し、図書館利用と読書を推進するために中央大学杉並高校で実施する活動です。今年度は、1年生2名、2年生3名、3年生1名の計6名が集まり、中央大学杉並高校の文化祭である「緑苑祭」への参加をメインに活動しました。高校からは2名参加していただき、現役高校生の意見も積極的に取り入れながら計画を進めていきました。SLの数が例年より多かつたこともあり、「本の福袋」「ライブライリーナビ」「学年別課題図書ランキング」の3つの展示を行うことができました。「本の福袋」ではリエゾン文庫（文学部の13専攻分野に関する書籍を集めたオリジナルの文庫）と課題図書2種類を3つずつ入れた計6つの福袋を制作しました。貸出の代わりに、封筒に本の書影とあらすじを書いた紙を入れたものを準備して持って帰っていただけるように工夫しました。

「ライブライリーナビ」とは、神奈川県立の学校図書館員研究会の研究活動から生まれた、図書館利用者をナビゲートする手のひらサイズのじゃばら折りのリーフレットのことです。これは高校の図書委員会にお手伝いしていただき、計24枚作成しました。高校生のSLだけでなく、図書委員会にお手伝いを依頼することで、今学期に1度も集まっていなかった図書委員会を活動に巻き込めるという良いアイデアだったと思います。

「学年別課題図書ランキング」は先生方にアンケートを取っていただき、それを集計して模造紙にまとめました。ランキングにした図書も一緒に展示することで、文字だけでなく実物も読むことができるように工夫しました。緑苑祭当日は多くの方にお立ち寄りいただき、その場に見てくださる方の姿も確認できました。本だけでなく、中央大学杉並高校や中央大学にも興味を持っていただけて良かった。

